

This Article is posted on April 4, 2016 issue.

## 世界に羽ばたく日本人ピアニスト SATOKO

ニューヨークを拠点に活動するピアニストのSATOKO。世界中で積極的に公演を行う傍ら、国連からプロジェクトのテーマ曲の作曲を依頼されるなど、作曲活動にも力を注ぐ若手ピアニストに話を聞いた。

### Q1 ニューヨーク

を中心に、さまざま  
な国で演奏されて  
きたそうですね。そ  
の経緯を教えてください。

6歳で初めて渡米して、7歳の時にニューヨークで初めてピアノ公演を行いました。音楽にとっても「世界の中心」といえるこの都市で、幼い頃から演奏できたことが、どんな国でもやっていける自信につながりました。1990年代中ごろから本格的に世界を舞台に演奏活動を開始し、米国以外にもフランス、ロシア、英国、スペインと国境を越えてお客さんの心に届くよう演奏してきました。

### Q2 国連のプロジェクトで自身の曲が採用されたそうですね。

2006年、国連からの依頼でPublic Service Announcement (世界の

若者に対し、公務に就くことの価値や重要性を、ビデオを通して訴えるもの)というプロジェクトに曲を提供しました。このことが自分にとって、本格的に作曲活動を開始する大きな転機となりました。当時のコフィ・アナン事務総長に加え、現在のバン・ギムン事務総長によるメッセージも、私の音楽とともに公務を志す人たちに届けられています。また世界中に1500万人もの視聴者を持つ国連のラジオ番組「UN Calling Asia」や「Poverty Day Feature」などのニュース番組でも曲が採用されました。世界有数の

### Q3 世界の名だたる音楽家の方からもSATOKOさんは高く評価されているとうかがいました。どのような方からコメントをいただいたのですか？

安全保障、国際協力機関に音楽が採用されることで、国籍を問わず人々の心の琴線に触れることができるとの機会を非常にありがたく感じています。

大変ありがたいことなのですが、例えばニューヨークのジュリアード音楽院教授で著名な作曲家のKendall D. Briggsさんからは、「対位法の使い方が、作曲の基盤が非常にしっかりしていると同時に、驚くほど才能豊か。音楽界に新たな風を吹き込む音楽家」という、大変身に余るお言葉をいただき恐

### Q4 今後の活動予定を教えてください。

縮さえします。また、箏曲演奏家の山路みほさんには、私が現在取り組んでいる新曲を聴いていただくと「映画の音楽のようなところもあり、シヨスタコーヴィツチのような心震わすようなメロディーがあり、かと思っていると和の要素も出てきたり。ぜひピアノのための曲を書いていただき、共演したい」と嬉しいお話をしてくだ

さいました。直近では、iTunesでシングル「Anthem」をリリースしました。また、2月には「New York City (Instrumental Version)」と「Secret Rose Garden (Instrumental Version)」をリリースしました。現在は、レクイエムに取り組ん



SATOKO

東京生まれ。4歳でピアノを始め、6歳で渡米した翌年にニューヨークで初めてピアノ公演を行う。帰国後、10代で著名な会場で公演を重ねた後、ニューヨーク州立大学パーチェス校、マンハッタン音楽院にてそれぞれピアノ専攻で修士課程を修了。現在は、ニューヨークを拠点に活動の幅を広げている。

でいまして、愛する人をな  
くした家族や友人が歌う  
曲ですので、激しく揺れ動  
く複雑な感情を感動的に  
表現することを心がけて  
います。夏前くらいに発表  
できればと思います。